

第75回
福岡県美術展覧会
〈会員の部〉

馬が隊列を組んで歩いている様をユーモラスなフォルムと土の素材感を活かした表面処理で表現しました。膨らんだ馬体は内に空洞を感じさせ、高温焼成で硬くなり光を通す磁土の特性と相まって素朴でありながらも透明感のある作品に仕上がりました。今後も磁土の可能性を探りながら自身の感じる心を大切に「ものづくり」に向き合っていきたいと思っています。

彫刻
湯之原 淳
「Procession」
富永朝堂賞



日本画 森田 秀樹
「悲しき画集」
福岡県美術協会賞
恩師の奥様より、亡夫が集めた画集を処分したいとの事方々に打診して、結局は大学に受け入れていただいた。一冊の画集も、画家の作品や多くの人の智が集まってできている。しかしながら、最近は大きくて重い本は厄介者扱いされて、スマホやパソコンの浅薄な情報を重宝する時代になった。それが悲しい現実である。



洋画
田浦 哲也
「天に唾吐く」
福岡県美術協会賞

Fasの新会員紹介に、「大海に蛙飛び込む水の音」と、意味不明な事を描いた。実際に耳で聞くことのできないこの水の音を、私はいつも心を研ぎ澄まして、想像力を掻き立てて聞こうとしていた。絵描きになりたいと決めた遠い昔から、この音はずっと響いているのだ。この絵には、創作の初期衝動の音のようなものが、いっぱい詰まっているように自分では感じていた。



「洋画」鍋山 由美子
「word in the box」
青木寿賞

「言葉」への思いがテーマです。物事の始まりは言葉だ。
しかし…。キャンパスに行き先の分らない稚拙な線を引き柔らかな暖かいふくらみを描いたり消したりする内に、現れるもの「言葉」にならなかった言葉」が、思いを内在させ表出する。「言葉以上の大きな言葉」です。小さな内的世界です。



「彫刻」松永慎一郎
安永良徳賞

中心をずらして重ねた二つの円に奥行きをつけることで釣り合うのか。厚みを変えることでおさる重心の移動を確かめてみました。全ての部材を一本の丸太から取ると木目や色味が揃い、より良い作品になれると信じていますが、その調達が一番の悩み処です。今回は桐を使用しました。またいい材に出会える様にと願っています。



「洋画」藤尾修二
「机」
山本文房堂賞

題名の机は、20数年前から私の家にある。いつも他のモチーフの台になっているもので、今回これを中心に絵を組み立てようと出品表を出した。毎年のことだが時間が足りず残念な思いの中出品した。自然な目でものを見る、ただそれを普通に描く、その難しさをいつも知らされる。

「書」川波 猗嶂
「沈鈞儒詩」
山本文房堂賞

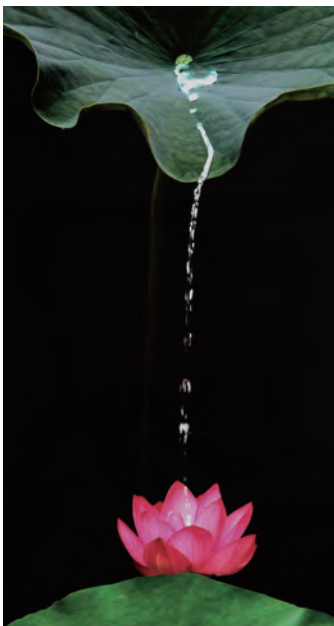
毎回意に満たぬところがありますが、それでもここ10年くらいは、人の目にも気にならなくなつて、やっと書くことに楽しさが感じられるようになりました。生きることと書くことは、僕の中では同値です。どうせ生きるならば、もっともっと我儘に書きたいと願っています。人間、生きていくのが花なんですから。



「書」吉村宣枝

「花のいろ」
福岡県美術協会賞

かなは構成、墨の濃淡の変化、連綿による線の流れ、字の大小により作品の変化をもたらします。和歌一首を如何にしてまとめるか苦心しました。かなの優美な舞を舞う様な雰囲気と線と、それでいて「有明の月」で墨をもり、躍動感ある厚味ある筆致でかきすすめ、それに終曲のしなやかさで六行目をまとめてみました。



「写真」小林勲

「雨しずく」
福岡県美術協会賞

2回目の県美術協会賞、大変ありがとございました。
作品は、山鹿の古代遺跡で撮影。蓮の葉に雨水が残っていて下にある花に雨水がしずくのような状態で落ちる瞬間を撮影したくて観光客にお願いして茎を少しゆすつてもらい撮影。その後、水道水で何度も撮影しましたが、繋がった状態で雨しずくの表現が出来ませんでした。蓮の花は、咲いた初日が綺麗でこの作品のポイントになっています。



「デザイン」大宝 拓雄

「平和を明日へ」
福岡県美術協会賞

デザインは他部門と違って情報学的に伝える機能を持つていなければならぬ。今回は「新しい時代へのメッセージ」というテーマにどう答えるか。身近の小さなテーマであっても表現とかがみ合えば強力なパワーになると思つし、テーマを大きに捉えると失速しそうな思いもあったが、人類の大切なパトーンという形で平和をつなごうとする様子を口ポットの手で表現した事だんとか思いを伝える事ができたように思う。

「日本画」稲員 頼子

「韻」
山本文房堂賞

植物の自然の営みを観察すると、一つ一つ大切な意味が在る様に思われます。己の中でどんなに消化し、どの様に表現したら良いのかいつも考えるのです。岩絵の具の質感で快い韻を描けたらと思います。この様な賞を賜り感謝申し上げます。



「デザイン」久保 紀子
「Poster 2019」
山本文房堂賞

「新しい時代へのメッセージ」を前に、今や人類にとって避けて通れない地球温暖化やプラスチックゴミ問題。いずれも海洋生物に大きな影響を与えています。中でもプラスチック問題は人々の使い捨てが大きな原因で世界の海を汚染しています。後世に美しい海を残したい。
「No more plastic」の思いを作品に託しました。



「工芸」丸田 巧

「塩釉線刻壺」
山本文房堂賞

今まで平凡な球体の壺には、墨などで下書きをしてシンメトリーな図柄を全面に施していましたが、今回は、作品に下書きをせずフリーハンドで線を彫つてみました。また、3色の呉須を調合し塩窯で焼成しています。同じ太さの彫りですがアシメトリーな文様で風や水の流れを感じて頂ければ幸いです。



「書」工藤 崇峰

「司空圖詩」
福岡県美術協会賞

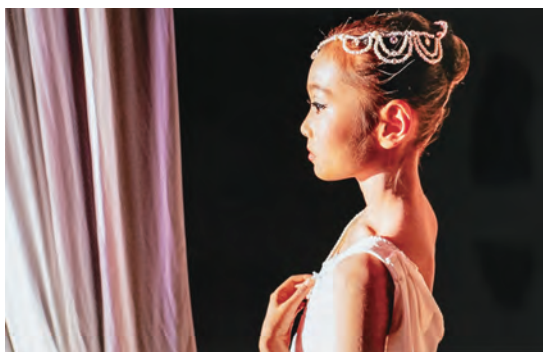
令和元年の受賞、嬉しく思います。
楷・行の大字の二行草書の二行。
調和のとれた違和感のない作品にするのが難題でした。自分では、バランスよく表現できたつもりですが、後からみるとまだまだ力不足。今後、初心にかえり、古典を追求してゆく所存です。



「工芸」富永 久仁代

「紺織絵絋着物」海からのたより」
豊田勝秋賞

「船の旅」をするたびに美しい海に感動。波の動きを着物にとデザイン。経糸は墨染の濃淡斜目に勢よく伸びる波は藍と白で染め分け五段を経ずらして結巻。緯糸は絵絋で、ゆつたりと大きな波の動き、さざ波に小っちゃい水玉波に夕日が映える姿などこの世のものとも思えない。胸ときめきながら織り上げることができました。



「写真」山中 美恵子

「輝きへ」
山本文房堂賞

賞を頂きまして誠に有難うございました。驚きと共にとても喜んでおります。「輝きへ」は、バレエの舞台上に出る直前で緊張と不安で胸が高くなる一瞬を切り撮ったものです。人物を撮る時は常に味があり、心に写っている写真をと願っております。16mmのレンズで自身のけぞりピン合わせをした事を覚えております。

2019福岡県シニア美術展を終えて

福岡県美術協会専務理事
シニア展運営委員長
小林敏夫

今回のシニア展は、準備期間も含めて通常2期・3週間の会期を2週間で開催することになりました。

しかし応募された作品は、高齢者ならではの人生経験に基づいたパワーが感じられる力作ぞろいでした。

応募作品減少への今後の対策といたしましては、足の便の悪い地域への配慮を考えたいと痛感しました。次回以降は、通常の会期での開催を早急に働きかけたいと願っています。

最後になりましたが、今回の開催に携わって頂いた全ての会員の皆様、関係各位に心からの感謝を申し上げます。

「ねんりんピック紀の国わかやま2019美術展」

2018福岡県シニア美術展の受賞作品から、福岡県の代表作品を出品し、2点入賞しました。



洋画部門 金賞「けなげに」井上豊



日本画部門 和歌山県知事賞「光芒」小方憲

第75回福岡県美術展覧会を終えて

福岡県立美術館普及課長
県展実行委員会事務局長
豊崎健一

令和の時代に入って最初の第75回県展も、おかげをもちまして無事に終えることができました。「無事に」と申しましたが、ここに至るまで想定外の事態もたくさん生じ、そのような時も小田部理事長をはじめ多くの会員の皆様のご協力を賜りながら乗り越えることができました。この場をお借りしまして厚くお礼を申し上げます。

さて、実行委員会としてはすでに第76回県展に向けて動き出しているところですが、乗り越えないといけない大きな課題がまだ目の前に横たわっております。すでにご承知のとおり、ここ

数年来出品数が減少し続け、また、若い世代の出品者がなかなか増えていない状況であり、実行委員会としても最優先でこれらの課題に取り組み続けているところです。昭和、平成、令和と三つの時代にわたり続いてきた県展が次の時代へと続いていくために、会員の皆様方と共にアイデアを出し合い、これらの課題を乗り越えてまいりたいと思っております。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

第75回 福岡県美術展覧会表彰



県展彫刻部門合評会報告

9月23日、県展彫刻部門の合評会が行われました。

県知事賞作品の審査評を皮切りに、審査に携わった3名と出品者6名（内4名が受賞者）、一般の観客7名でスタート、観客が入れ替わりながらも全入賞作品を一点一点、審査の模様から審査の段階で交わされた意見や評価点等、参加作家に制作意図や制作過程での苦心等を伺いながら、トークセッション形式で講習会を進めた。出品規定や条件などの具体的な話から始まった質疑応答の終盤、惜しくも入賞にもれた作品を取り上げた際、「どのような点を意識し制作すべきか」という出品者との質疑応答の中で、「何を持って彫刻たり得るのか」と言う本質的な問いかけを感じた。制作を通じて、その答を求め続けることが重要なのだとあらためて思った。

(彫刻部・津田三朗)



福岡県立美術館

この冬の展覧会

赤星孝と赤星信子展

令和2年2月1日(土)〜3月8日(日)

この冬、福岡県立美術館では「赤星孝と赤星信子展」を開催します。本展は、ともに独立美術協会に所属し、戦後の福岡の洋画壇を牽引した画家夫妻である赤星孝(1912-1983)と赤星信子(1915-2014)を、ふたりの交流



赤星信子「黎」
1996年 第64回独立展 個人蔵



赤星孝「プロバンス」
1965年 第33回独立展 個人蔵

や影響関係、作風の差異や近似性に焦点を当てて紹介するものです。ふたりはとも

に抽象画の大作を描きましたが、白を基調にしながら、理知的で構築的な画風を見せた孝に対して、情感豊かな赤を全面に用いて、情熱的で力強い画風を見せた信子というように、それぞれの特徴を存分に発揮しています。画家夫妻でありながら、生前にはあえて二人展を開こうとしなかったため、ふたりの作品をともに紹介する本展は初の試みになります。ともに画家として同じ時代を生き、「洋画」という土俵で切磋琢磨しながら、夫妻として互いの存在を認め、信頼し合いながらその画業を深めていった画家夫妻の豊かな創作活動の広がりを感じ取っていただければ幸いです。

(学芸員・高山百恵)

〈賛助会員のご紹介〉

多くの企業の御支援をいただいています。

- 九州電力(株)
- (株)福岡銀行
- 西部ガス(株)
- 西日本鉄道(株)
- (株)西日本シティ銀行
- (株)九電工
- 九州旅客鉄道(株)

- 朝日自動車(株)
- (株)味の兵四郎
- 有澤ホールディングス(株)
- (株)ACR

- (株)岩田屋三越
- (株)ヴォイス
- 北九州書道協会
- (株)喜多屋
- ギャラリーSEL
- (株)久原本家グループ
- (医)佐田厚生会佐田病院
- 社会福祉法人 さわやか会

- (株)サンビルテックシステム
- (株)上海堂
- 祥文社印刷(株)
- (資)書材の丸大
- (株)新出光
- (株)杉田写真館
- (有)スズキ補聴器センター

- 西部沢井薬品(株)
- (株)ゼンリン
- 太宰府天満宮
- タマホーム(株)
- (株)テレビ西日本
- (株)唐人ペーカリー
- 東美福岡店

- トヨタカローラ博多(株)
- 長門博之法律事務所
- (学)中村学園
- (株)中村美術堂
- (学)中村産業学園(九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部)

- 日本デザイナー学院
- (株)博多大丸
- (株)博運社
- 筥崎宮
- 美術総業 白美堂(有)
- 晩香堂
- 東昭栄興業(株)
- 福岡芸生美術会
- (学)福岡成蹊学園

- 福岡外語専門学校
- 福岡ロジテム(株)
- (株)平助筆復古堂
- 平成美術(株)
- 墨扇堂
- ミナミ画材

- 南谷総合法律事務所
- (株)山本文房堂
- 文房四宝 和美創
- (株)ワン・オフ
- 〈新賛助会員〉
- (株)プランテックコンサルティング



榊 孝陽 (日本画部会員)

「天から横に降る雨はない」

平成16年全国にある矯正施設(刑事施設の福岡拘置所の篤志面接委員を委嘱され美術(集団対象)を担当す

表彰、そしてこの度の紹介と予期せぬ事ばかり、感謝の気持ちで一杯です。

令和元年度 法務大臣表彰



松尾 新吾

公益社団法人福岡県美術協会顧問九州電力株式会社特別顧問

秋の叙勲 旭日大綬章

身にあまる光栄と感激の極みです。今後ともより一層の精進を重ね、いささかなりとも、皆様のお役に立てるよう、努めて参りたいと思っています。



八久保 卓爾 (洋画部会員)

「美術教育」私立小学校退職後、市立小学校からのお話で指導

第17回 福岡県市民教育賞 教育者奨励賞

復帰する「社会」の観点に立ち、受刑者の未来と社会へつなぐ架け橋の役目を担うことになりました。活動の内容については「任せられ、もろろん施設の秩序維持や管理の方針を順守しながらの自発的な活動です。活動中の話題内容、言葉使い等々、篤志面接委員の個性、社会経験と学んで来た知識に基づくと人間性を生かすことが必要になりますが、実践となると、なかなか容易ではありません。今日迄関わってきた多くの受刑者の罪状については聞きませんが、矯正施設に勤務されている方、篤志面接委員の願いは、出所後の受刑者の更正であることには間違いありません。これからも更正を支援する篤志面接委員の活動は続けていきたいと思えます。

福岡県立美術館 (アートコース) 「スクール・ミュージアム事業」美術協会より会員2名を講師として派遣

福岡県立美術館では、県内の公立学校(小・中学校、高等学校等)約20校の児童生徒を対象に、作品鑑賞をととして美術に対する興味関心を高めることを目的としたスクール・ミュージアム事業を実施しています。今回、県展期間中に中学校2校が訪れ、洋画、工芸などの優秀作を鑑賞しました。その際、ゲストティーチャーとして美術協会の宇美拓哉氏、太田剛速氏に作品解説や実演をしていただきました。作品制作にかけの思いや制作過程、技術を間近に観ることで、展示作品をより興味深く鑑賞することができました。(福岡県立美術館 普及課 石原政明)



工芸・実演

に行き始め、十六年目になりました。雙葉小での図工専科教員の経験と共に、美術協会活動による絵画経験を生かした実技を活用するわかりやすい指導が喜ばれ、訪問校も延べ七十八校になりました。子どもたちは絵が大好きですが、周りの期待や他人の目のプレッシャーで自信を失いがちです。でもその子の良さを見つけ、子どもらしさを生かす指導で大きく変わる姿は感動的です。今回の受賞はそうした指導を認めて下さったものだ感謝しています。

第27回ふくおか県民文化祭2019 2019ふくおか県障がい児者美術展 「絵画・書道・写真」

昨年同様美術協会より審査員・ギャラリートークのため会員を派遣しました。 11/ 9(土) - 10(日) みやこ町勝山体育館 11/12(火) - 17(日) 田川市美術館 11/19(火) - 29(金) 福岡県庁 12/ 3(火) - 8(日) 九州芸文館 12/10(火) - 15(日) 北九州市立美術館 黒崎市民ギャラリー

各部会のとりのくみ 書部会

第75回県展 入賞・入選者、正会員合同祝賀会および小作品展

- 日時:9月29日(日)16時～
- 会場:福岡リーセントホテル
- 参加者:225名
- 会場には大家(青山杉雨・赤羽雲庭・殿村藍田・村上翠亭・犬養木堂・市河米庵等)の先生方の小作品展を開催し、参加者に楽しんでいただきました。(書部会委員長:川波崎嶂)

税

- 法人
- 個人
- 相続
- 開業支援

大松隆 税理士事務所

092-631-3000

JR箱崎駅より徒歩約5分

福岡市東区箱崎一丁目4番10号 エレガントライフ筥崎303号

fas gallery

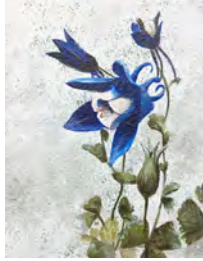
展覧会・出版のご案内

2019年

田中孝林展 ～記憶のスケッチ～

■ 12月3日(火)-
12月8日(日)
■ ギャラリーSEL

季節の花や樹々を小品～
F130号に油彩、水彩、顔彩で
描いた作品約30点を展示。



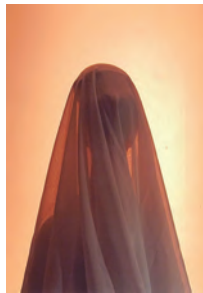
「オダマキ」 田中孝林

朗読と彫刻で紡ぐ 冬一夜の物語 ～灯りに包まれて～

■ 12月14日(土)17時開演
定員50名先着順 入場無料

■ 福岡女子大学
図書館円形ホール

片山博詞・岩村朋子・松下美
紀によるコラボレーション!
(片山 博詞)



書塾如月33名の仲間達 言葉のプレゼント

■ 12月16日(月)-
12月22日(日)

■ ギャラリー風

あわただしい年末ですが、目
にも心にも優しい手書き文字
に触れていただきたいと思
いを込めて。(松本 采歌)



2020年

岩永敬子個展

■ 1月7日(火)-
1月19日(日) (13日(月)は休廊)
■ 新天町村岡屋ギャラリー

銅板画による小品and油彩画
(岩永 敬子)



「サクランボの風」 岩永敬子

第13回福岡市美術連盟「チャリティ展」

■ 1月21日(火)-1月26日(日)
■ 新天町村岡屋ギャラリー2階・3階

福岡市美術連盟会員によるチャリティ展。
作品の売上げを民生事業団に寄付します。(光行 洋子)

第18回代表作家展

■ 1月23日(木)-1月27日(月)
■ コスメイト行橋企画展示室

行橋市美術展覧会、正
会員以上の作家の力
作が一堂に会し展示
されます。(工藤 崇峰)

天神・梅花の宴 ～うたとアート～

■ 2月3日(月)-2月9日(日)
■ ギャラリー風

菅原道真公にちなむ
天神の街で梅をテー
マに歌とアートのコラ
ボ展。洋画部会員出
品/光行洋子・古本元
治・濱田隆志・松永
瑠美。(光行 洋子)



「梅香の宴」 光行洋子

さわやかな光の詩 八久保卓爾個展

■ 3月17日(火)-
3月22日(日)

■ ギャラリーSEL

水彩を中心に海外・国
内の風景、そして静物
などの作品40点ほど
を展示します。
いつも絵を描く時に心
がけているのは"さわ
やかな光"です。
(八久保 卓爾)



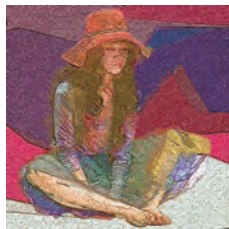
「ランチタイム チェファルー」(シテリア・イタリア)

福岡二紀4号展

■ 4月28日(火)-
5月3日(日)

■ 新天町
村岡屋ギャラリー
福岡二紀会員全員による
油彩・彫刻。
初日オープニングパー
ティー (岩永 敬子)

「思う」 高口秀樹



第73回示現会巡回福岡展

[同時開催] 第7回示現会福岡支部公募展

■ 5月12日(火)-5月17日(日)
■ 福岡市美術館

特別展示室開催となり、
公募展も開催致します。
巡回作品を60点に増や
し140点程の展示となり
ます。公募展にもご参加
お待ちしております。
(瀧井 利子)

「思いを溜める」 瀧井利子



宇田川宣人展

画業60周年・新天町村岡屋ギャラリー開設50周年記念

■ 5月26日(火)-6月7日(日) 6月1日(月)休廊日

■ 新天町
村岡屋ギャラリー

ギャラリーオープン50
周年を記念する画廊
企画展。15歳から75
歳迄の60年間の画業
をコンパクトにまとめ
て回顧する。
(宇田川 宣人)



「ハート」 宇田川 宣人

第28回行橋市美術展覧会

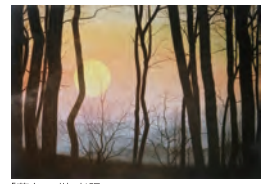
■ 5月29日(金)-6月1日(月) 行橋市とその近郊から
広く募集した作品を展
示します。(工藤 崇峰)

第4回福岡市美術連盟会員 日本画展

■ 6月9日(火)-6月14日(日)

■ 新天町
村岡屋ギャラリー
2階・3階

福岡市美術連盟日本
画部会員による隔年
開催の展覧会です。
(城戸 久美子)



「暮色」 村孝陽

第2回東京藝術大学美術学部同窓会 福岡 杜の会 展

■ 7月13日(月)-7月19日(日) ■ ギャラリー風

福岡県で活動する東
京藝術大学卒業生の
作品展。洋画、日本
画、彫刻、工芸、デザ
インなど。柴田善二・江
藤日出男・宇田川宣
人・古本元治・小田部
黄太、他多数。
(宇田川 宣人)



今林 久・堺 敏 二人展

■ 7月14日(火)-7月19日(日) 2回目の二人展です。自
然釉を中心にした湯呑、
茶碗、皿など小物を楽し
んで下さい。(今林 久)

編集後記

即位礼正殿の儀の日の午前中、
FAS58号の第1回広報委員会が
行われた。広報委員としてデビューまもないわたしはペテ
ラン委員の間で飛び交う登場人物がよくわからないまま
進行していく。発送までのスケジュールはギリギリで不安
もあるのに、その雰囲気は終始和気が漂っていた。その
後、引き続き福岡県立美術館で観覧。日頃慣れ親しんで
いる美術館であるが、初めて1Fから4Fまで開催中の展覧
会を一気に全制覇。この晴れやかな日、わたしは美術館を
満喫した秋の一日となった。(広報委員会:磯脇 みつこ)

【広報担当理事】 千本木直行 【広報委員会】 ● 委員長:(彫刻)津田三朗 ● 委員:(日本画)峰松由布子 / (洋画)大塚美和子 / (工芸)富永久仁代 /
【副広報担当理事】 山田彰 (書)古木青翰 / (写真)堀川不二男 / (デザイン)磯脇みつこ



文房四宝・表装・貸額・通信販売・中国貿易
株式会社 上海堂

《本 店》 北九州市八幡西区藤田1-3-15 TEL(093)621-0345・FAX(093)641-8935
《黒崎支店》 北九州市八幡西区黒崎1-1-1 クエスト黒崎井筒屋7F TEL・FAX(093)643-5548
《小倉支店》 北九州市小倉北区馬借1-4-7 ブックセンタークエスト 地下1F TEL・FAX(093)522-8907